

■ 循環器内科

① スタッフ

前田裕史	副院長兼内科部長、S60 卒、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会名誉専門医
羽鳥光晴	内科科長、H11 卒、日本循環器学会専門医
秋山大樹	内科科長、H16 卒、日本循環器学会専門医
川辺正之	H18 卒 日本循環器学会専門医

② 入院患者

総数 803 名 (昨年比 -46 人)

(内訳)

狭心症	165 名 (昨年比 +10)
急性心筋梗塞	58 名 (昨年比 -7) (院内死亡率 10%)
弁膜症	27 名
心筋症	16 名
うっ血性心不全	202 名 (昨年比 -49)
不整脈疾患	78 名
閉塞性動脈硬化症	10 名
肺炎	49 名 (昨年比 +10)
糖尿病	34 名
感染性心内膜炎	3 名
肺塞栓、肺高血圧	5 名
がん	10 名
老衰	19 名 (昨年比 +12)
その他	127 名 (脳梗塞、感染症など)

循環器総入院数は今年度は大幅に減少しました。なかでも急性心筋梗塞、心不全症例が減少しています。

その反面、高齢者の肺炎、老衰が増えました。

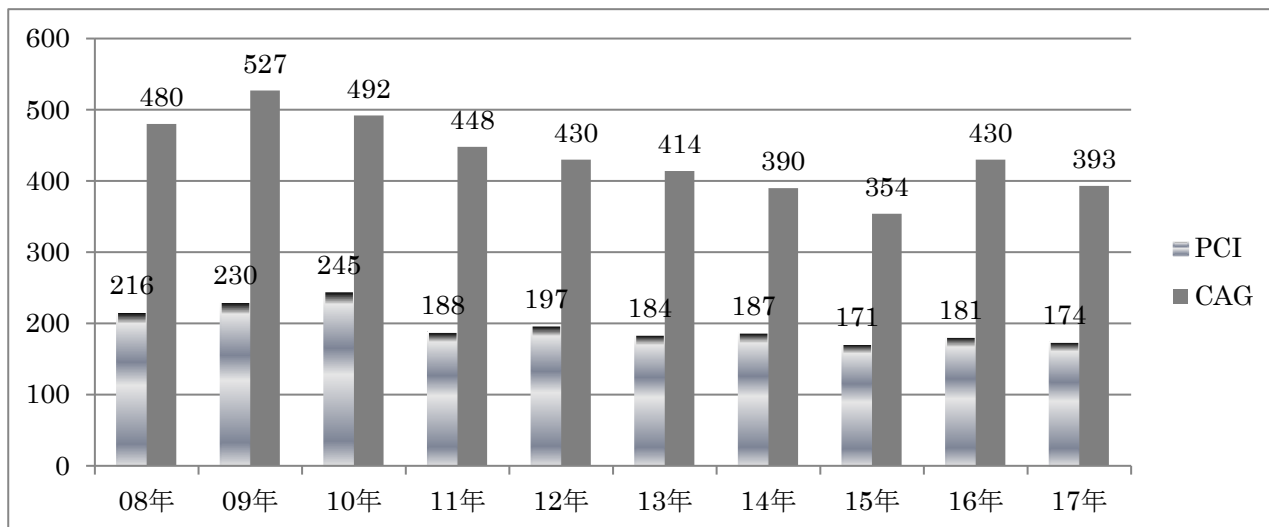
③ 心臓、血管カテーテル検査・形成術

冠動脈造影検査件数は、昨年度より減少しました。

また、インターベンション件数も微減しています。

急性心筋梗塞患者の受け入れには、できるだけ応じるように努力いたしましたが、人員不足から、やむをえず断った事例があり、これが件数の低下につながっているものと反省しております。

過去 10 年のカテーテル実施件数の推移



平成 29 年度検査件数(内訳)

冠動脈造影	393 例
体外式ペースメーカー	10 例
冠動脈形成術	174 例
末梢動脈形成術(下肢)	4 例
IVUS	138 例
OCT	67 例

早期成績

冠動脈形成術初期成功率 173/174 例(99%)

不成功例の 1 例はガイドワイヤー不通過によるものでした。慢性閉塞症例の PCI 例です。

合併症

Q 波急性心筋梗塞	0/症例
緊急冠動脈バイパス術	0/174 症例
死亡	1/174 症例
急性冠閉塞(SAT)	0/174 症例
nonQ波心筋梗塞(側枝閉塞)	0/174 症例
穿刺部血腫・感染	0/174 症例

死亡例は、急性心筋梗塞で、補助循環(PCPS)、IABP を用いて治療を行い、急性期の再灌流には成功しましたが、救命できませんでした。

4 総括

29年度は、病状の安定した患者様におきましては、近隣の医療機関への移動をお願いしてまいりました。患者様ならびに近隣医療機関の方々の、ご理解、ご協力誠にありがとうございました。次年度は、循環器医師の増員が見込めそうです。より急性期治療に、力を入れてまいりますので、

今後ご協力のほど、お願い申し上げます。